

牛久：学校周辺に見る自然

第16号 ひたち野うしく小

2012年7月12日発行

＜ 梅雨の水辺公園 ～動物のすがたを観察しました。その③. ハチ、アリ、ハエ ＞
ひたち野うしく小3年生との水辺公園シリーズ。今回は、ハチとアリとハエをくらべてみましょう。



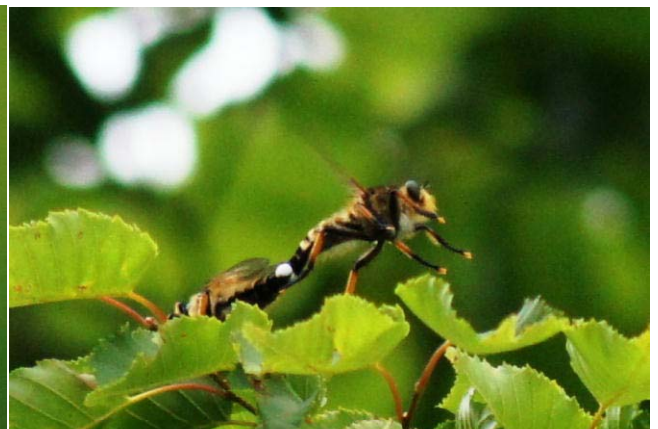
↑ セイヨウタンポポの花みつをなめる、キタヒメヒラタアブのメス。

「あっ、ハチだ！こわい！」
黄色と黒のしま模様を見て、
そう叫んだ人はいませんか？
でも、安心を。よく似ていますが、
こちらはハナアブの仲間で、
キタヒメヒラタアブのメスです。
ハチとどこが違うかって？まず、
複眼の大きさです。頭の大きさに
くらべて、複眼が大きいですね。
それと触角の長さが短いこと。
胸部と腹部の間のくびれがないこと。
翅（はね）が2枚（ハチでは4枚）
などが、ハナアブも含めたハエの仲間の
特徴です。



そこに注目して、この日見られたハエの仲間をみてみましょう。
金属光沢が美しいアシナガキンバエ。他の昆虫を捕まえて食べて
しまうサキグロムシヒキ、シオヤアブ。どれもずん胴で、翅は2
枚、触角が短く複眼は大きめですね。アブの仲間などは、ブ～ン
と羽音を立ててこわい感じがしますが、近くにとまったら、よく
見てみましょう。え物をかかえていることもありますよ。

← 金属光沢の美しい、アシナガキンバエのオス。



サキグロムシヒキ（左）と、交尾中のシオヤアブ（右）。どちらも、他の昆虫を捕まえて食べる。



では、今度はハチの仲間をみてみましょう。左は、キゴシジガバチ。胸部と腹部のつなぎ目がとても細いですね。ここが黄色いので「黄腰（きごし）」というわけです。ハエとは全然違いますね。巣にいる幼虫のために、クモに麻酔をして持ち帰り、与えるそうです。

名前のもとにもなった黄色い腰（こし）が、とても細いキゴシジガバチ。触覚も長いですね。



シロツメクサやブタナなどにも、まっ黒なハチがさかんに訪^{おとずれ}れていました。よく見ると、腹部に黄色い紋^{もん}があります。長めの触^{しょつかく}角と4枚の翅^{はね}で、ハチと分かりますね。

腹部に大きな黄色の紋(もん)がある、キオビツチバチ。写真はメスだが、オスの触角はもっと長く、翅(はね)の3分の2くらいある。



さて、左はハチでしょうか、ハエでしょうか？触^{しょつかく}角は長いですが、腰は全然くびれていません。でも翅^{はね}は4枚です。じつは、原始^{げんしてき}的なハチの仲間で、ルリチュウレンジといいます。体の色から「瑠璃(るり)」です。幼虫は、ツツジの葉を食べます。それでこれらをハバチ(葉蜂)の仲間とよぶこともあります。捕まえると刺^さすような動きをするものもいますが、毒針^{どくばり}はありません。アシナガバチなど他のハチの毒針は、もともと産卵管^{さんらんかん}が変化したのですが、ハバチの仲間では木に穴をあけたりして産卵するのに使っていて、毒もないし、人や他の動物を刺すこともないのです。このような植物食のハチから、後に寄生バチ^{きせい}が誕生^{たんじょう}して肉食となり、さらに、狩りバチ^{しんか}へと進化^{しんか}していったと考えられています。そしてそれらの中から再び植物食へと変わったのがハナバチの仲間といわれています。むずかしいけれど、興味深い^{きょうみふかい}話です。

↑ 青藍色の体が美しい、ルリチュウレンジ。幼虫がツツジの葉を食べる、原始的なハチの仲間。

ギシギシの葉には、たくさんの幼^{ようちゆう}虫がついていました。以前にもご紹介したことがありますが、これはハグロハバチの幼虫です。そう、これも原始的なハチ、ハバチの仲間です。よく見ると、とてもかわいいですよ。葉を食べるのは、チョウやガの幼虫だけではないのです。

最後に、右はクロヤマアリ。なぜアリ？と思うかもしれませんが、じつはアリは、ハナアブなどよりずっとハチに近い仲間なのです。これに翅^{はね}をつけたら、ハチそっくりでしょう？

【理科支援員：宮内】



↑ ギシギシの葉を食べる、ハグロハバチの幼虫。



↑ アブラムシにきたクロヤマアリ。